

令和2(2020)年度

神戸大学先端融合研究環  
人文・社会科学系融合研究領域  
実績報告書

神戸大学先端融合研究環

# 目 次

## <研究プロジェクトの名称>

○持続可能な交通（Sustainable Transport）実現に関する研究・・・	1
○歴史資料・企業資料のデータベース化、及び画像・テキストデータに 基づく歴史・実証・文理融合研究・・・	5
○現代中国研究拠点・・・	12
○メタ科学技術研究プロジェクト：方法・倫理・政策の総合的研究・・・	17
○人文情報の文理融合研究と地域学創出・・・	28
○移住・多文化・福祉政策に関する国際的研究拠点の形成・・・	34
○市場経済の持続的成長可能性に関する研究・・・	43
○貧困削減のための持続可能なコミュニティ開発・・・	53

様式（年次報告書）

令和 3 年 5 月 6 日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		持続可能な交通(Sustainable Transport)実現に関する研究	
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経営学研究科・三古 展弘	
当該年度	研究員数	8人(学術研究員, 学振特別研究員(DC1, DC2は除く), 外国人招へい研究員等)	
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 5,590千円, 受託研究経費 千円, 奨学寄附金 千円, その他( 千円)	
	特許出願件数	件,	論文発表件数 11件, 著書数 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
三古 展弘	経営学研究科・経営学専攻	研究総括ならびに交通者行動の分析
水谷 文俊	神戸大学理事, 経営学研究科	交通政策の経済分析
水谷 淳	海事科学研究科・海事科学専攻	交通産業の構造分析
酒井 裕規	海事科学研究科・海事科学専攻	交通企業の行動分析
中村 絵理	経営学研究科・経営学専攻	公益企業の分析
角田 侑史	経営学研究科・経営学専攻	航空産業の理論モデル分析
松尾 美和	経済経営研究所・企業競争力研究部門	公共交通の効率性・有効性評価
正司 健一	経営学研究科・名誉教授	交通経営における持続可能性の検討

### 3. 研究成果の概要等について

持続可能な交通（Sustainable Transport）の定義は一意に定まっているわけではないが、そこに共通するのは、適切な費用負担のもと、効率的で、可能な範囲で複数の選択肢を持ちながら、社会経済活動をしっかりと支え、環境面でも持続可能性に配慮された交通システムといった考え方であり、近年の交通政策・交通学研究のキーコンセプトとなっている。本研究プロジェクトは、われわれがこれまで取り組んできた基盤的研究を基に、持続可能な交通を実現するための制度構築ならびにその運営について分析を進め、同分野の研究発展に資するとともに、実践的課題解決へつなげることをめざしている。

2020年度の成果としては、全部で11本の論文（うち7本が海外ジャーナル）を公表したことがあげられる。海外ジャーナルにて公版された研究の一部を紹介すると、まず、わが国のJR貨物とJR旅客会社間の線路使用料におけるアボイダブル・コスト・ルールについて検討し、現在のJR貨物が支払う線路使用料とJR旅客会社が負担している線路維持費用を試算したところ、費用の1/3程度しか使用料が支払われておらず、JR旅客会社には、自社の線路を走行する貨物列車を削減するインセンティブを持つ可能性があることを明らかにしたものがある。また、鉄道事業においてインフラ維持部門と車両運行部門の間の調整問題について、日本の鉄道事業3社を対象にケーススタディを行い、調整プロセスでインフォーマルなコミュニケーションが果たす役割は大きく、このようなコミュニケーションを可能にする組織設計は、垂直統合組織でしか導入できないこと、したがって、輸送密度が高く部門間調整が特に重要となる場合には、調整効率を上げる垂直統合組織が望ましいといえることを明らかにした。これら以外にも、既存事業者である大手FSC（Full Service Carrier）の運賃水準に与えた影響は、LCC（Low Cost Carrier）よりも新幹線の方が大きく、その理由の一つは、新幹線の大きな輸送力にあると考えられることを明らかにした研究や、鉄道事業における上下分離を数理モデルを用いて解明した研究、オートモビリティのレベルにおけるジェンダーギャップを米国におけるヒスパニック系住民を中心に分析した研究、傾斜地におけるアクセス交通の手段選択行動を、RPデータおよびSPデータを用いて分析した研究など、構成員による多様な視座から研究を推進することができている。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、昨年度2020年3月21日に海外から3名の本分野の著名研究者を招聘して開催予定だった国際会議をやむなく中止したのに続き、2021年9月、東アジアでは初めて神戸で開催を予定していた、本分野において非常に重要な国際会議である第17回 International Conference on Competition and Ownership in Land Passenger Transport の開催も、延期されることとなった。同会議は、交通政策分野の第一線の研究者のみならず、政策担当者、交通事業者・技術者が集まりワークショップ形式で議論を積み重ねるというユニークなスタイルをとっていることから、Web開催で代替することは困難であるが、幸い、2022年9月にやはり神戸で開催されることが正式決定された。そこで、その開催準備にも引き続き努めている（日本側運営委員会のchairを代表者の三古が務め、他の構成員も多くが運営委員会メンバーになっている）。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

[論文]

松尾美和, 「米国フロリダ州交通局におけるパフォーマンス管理の取組みとその課題－MAP-21以降のパフォーマンス規定型計画への示唆－」, 国民経済雑誌, 221(5), pp.21-39, 2020年5月.

Mizutani, J. and S. Fukuda, “Issues on Modal Shift of Freight from Road to Rail in Japan: Review of Rail Track Ownership, Investment and Access Charges after the National Railway Restructuring”, *Research in Transportation Business and Management*, 35, pp1~9, 2020年6月.

酒井裕規, 「地域交通維持における住民参画の意義と課題－青葉台コミュニティバス運営協議会の取組み－」, 青木亮(編著)『地域公共交通の維持と活性化(日本交通政策研究会研究双書32)』, 成山堂書店, 第9章, pp.137~156, 2020年8月.

Matsuo, M., “Carpooling and drivers without household vehicles: gender disparity in automobility among Hispanics and non-Hispanics in the U.S.”, *Transportation*, 47(4), pp. 1631~1663, 2020年8月.

Mizutani F., “A comparison of vertical structural types in the railway industry: A simple mathematical explanation model”, *Research in Transportation Economics*, 81(100865), pp.1~10, 2020年9月.

Mizutani F. and S. Uranishi, “An analysis of the inter-effect of structural reforms and rail mode share”, *Research in Transportation Economics*, 81 (100862), pp. 1~15, 2020年9月.

Nakamura E. and H. Sakai, “Does Vertical Integration Facilitate Coordination between Infrastructure Management and Train Operating Units in the Rail Sector? Implications for Japanese Railways”, *Utilities Policy*, 66, 2020年10月.

酒井裕規・鈴木裕介, 「クルーズ船による生活廃棄物の社会的費用の計測－福岡県博多港を対象とした分析－」, 海運経済研究, 54, pp.41~50, 2020年10月.

水谷 淳, 「タイとオーストラリアの国内航空市場における FSC と LCC の競争構造について－Market Commonality と Resource Similarity を用いた分析－」, *KANSAI 空港レビュー*, 503, pp.24~27, 2020年10月

Sanko, N. “Activity-end access/egress modal choices between stations and campuses located on a hillside”, *Research in Transportation Economics*, 83(100931), 2020年11月.

Mizutani, J. and H. Sakai, “Which is a stronger competitor, High Speed Rail, or Low Cost Carrier, to Full Service Carrier?: Effects of HSR network extension and LCC entry on FSC's airfare in Japan”, *Journal of Air Transport Management*, 90, pp. 1~11, 2021年1月.

## 5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究B

代表者名: 正司 健一

研究課題名: 持続可能な交通についての研究: 制度構築, 公民の役割分担を中心に  
受入金額: 5,590,000 円 (直接経費: 4,300,000 円)

(2) 受賞 (賞名称, 受賞対象, 受賞者名, 授与機関名, 受賞年・月)

該当なし

(3) 特論の実施内容

該当なし

(4) 研究集会の開催 (研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る)

該当なし

(5) その他, 研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

例えば, 正司が, 「四国における鉄道ネットワークのあり方に関する懇談会Ⅱ」(四国旅客鉄道・香川県・徳島県・高知県・愛媛県)の座長を引き続き務めている。また特定非営利活動法人「再生塾 - 持続可能なまちと交通をめざして」理事長として, まちづくりや交通の問題の解決に取り組む行政団体, 地域, 学校, 交通事業者, コンサルタント等の担当者等を対象として, 人材育成等を行っている。なお, 同組織は 2021 年 3 月, 令和 2 年度近畿運輸局地域公共交通優良団体表彰を受けた。

様式（年次報告書）

令和 3年 5月 12日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		歴史資料・企業資料のデータベース化、及び画像・テキストデータに基づく歴史・実証・文理融合研究
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		計算社会科学センター・センター長 上東貴志
当該年度	研究員数	10人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 27,993 千円，受託研究経費 1,911 千円，奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	0件，論文発表件数 15 件，著書数 2 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
伊藤 宗彦	経済経営研究所	研究分担者
西谷 公孝	経済経営研究所	研究分担者
高槻 泰郎	経済経営研究所	研究分担者
柴本 昌彦	計算社会科学センター	研究分担者
山崎 潤一	経済学研究科・経済学専攻	研究参画者
陳 金輝	経済経営研究所	研究参画者
石堂 詩乃	経済経営研究所	研究参画者
野邑 理栄子	大学文書史料室	研究参画者
小代 薫	計算社会科学センター	研究参画者

### 3. 研究成果の概要等について

当プロジェクトの目的は、DB化・デジタル化の対象を学内外の歴史資料に拡大し、ディープラーニングやテキストマイニング等の最新技術とともに、従来の資料研究の手法も活用することにより、本学独自の文理融合型歴史資料拠点を形成することである。

昨年度は大学文書史料室に保管されている神戸高等商業学校初代校長水島鍬也先生が発行した卒業生の推薦書等の控え約2,300点を翻刻し、現代語に訳した。同推薦書は、明治44(1911)年から大正7(1918)年まで、水島校長が神戸高等商業学校で「学理」を学んだ卒業生が「実際」の社会へと第一歩を踏み出す際に、企業・学校等へ宛てたものである。その成果として、以下の書籍を刊行した。

『水島鍬也校長 卒合成推薦書全集』(全6巻)

今年度は、同全集の電子版の制作を進め、さらに、同全集に基づく研究論文に着手した。

さらに、少子化および家族構成の変化に関わる長期的な歴史資料を用いたデータベースの構築を開始した。当該データベースに関しては、現在、国際日本文化研究センターとの共同研究の可能性について議論を進めている。

また、本プロジェクトの成果として、第5回「計算社会科学ワークショップ」(神戸大学計算社会科学研究センター共済・オンライン開催、2021年2月27-28日)において、以下の発表を行った。

鴨頭俊宏 「自治体史誌の全国的な編さん傾向へのアプローチ:近世史用語『異国船』をキーワードとして」

歴史研究と計算社会科学研究の連携の方向性を示すものとして、好評を博した。



#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### [論文]

- ① 論文名：「計算社会科学の今後の展望と課題」  
著者名：上東貴志  
掲載誌，巻，ページ：鳥海不二夫 編著『計算社会科学入門』丸善出版 12章 289-297頁 2021年1月
- ② 論文名：“Perceptions of Customers as Sustained Competitive Advantages of Global Marketing Airline Alliances: A Hybrid Text Mining Approach”  
著者名：Munehiko Itoh with Gang-Hoon Seo  
掲載誌，巻，ページ：Sustainability, Vol.12, Issue 15, No.6258 August 2020
- ③ 論文名：“Corporate social reporting in the banking industry of Bangladesh: A test of legitimacy theory”  
著者名：Kimitaka Nishitani coauthored with Islam, M.T. and Kokubu, K.  
掲載誌，巻，ページ：Social Responsibility Journal 17 (2), pp.198-225 February 2021
- ④ 論文名：“The introduction of material flow cost accounting in Thien Phuoc Manufacturing & Trading Co., Ltd and Vietnam Food Industries Joint Stock Company”  
著者名：Kimitaka Nishitani coauthored with Nguyen, T.B.H. and Kokubu, K.  
掲載誌，巻，ページ：Journal of International Economics and Management 132, pp.59-75 (in Vietnamese) November 2020
- ⑤ 論文名：「デリバティブ取引はいかにして生まれたか」査読なし  
著者名：高槻泰郎  
掲載誌，巻，ページ：『経済セミナー』718号 111-116頁 2021年3月
- ⑥ 論文名：「大坂米市場の形成と気候変動」  
著者名：高槻泰郎 中塚武監修／中塚武・鎌谷かおる・佐野雅規・伊藤啓介・對馬あかね編  
掲載誌，巻，ページ：『気候変動から読みなおす日本史第1巻 新しい気候観と日本史の新たな可能性』第4章 188-193頁 臨川書店 2021年2月
- ⑦ 論文名：「金融の街・大坂はいかにして生まれたか」査読なし  
著者名：高槻泰郎  
掲載誌，巻，ページ：『経済セミナー』717号 81-87頁 2021年1月

- ⑧ 論文名：「近世日本経済の概観」査読なし  
著者名：高槻泰郎  
掲載誌，巻，ページ：『経済セミナー』716号 70-76頁 2020年11月
- ⑨ 論文名：「近世日本の中央市場と気候変動」査読あり  
著者名：高槻泰郎 中塚武監修／鎌谷かおる・渡辺浩一編  
掲載誌，巻，ページ：『気候変動から読みなおす日本史第5巻 気候変動から近世を  
みなおす—数量・システム・技術』第5章 125-151頁 臨  
川書店（柴本昌彦、村和明との共著）2020年11月
- ⑩ 論文名：「近世大坂米市場における価格形成の安定性」査読あり  
著者名：高槻泰郎 鎮目雅人編  
掲載誌，巻，ページ：『信用貨幣の生成と展開 近世～現代の歴史実証』第5章 183-  
218頁 慶應義塾大学出版会 2020年8月
- ⑪ 論文名：「コロナ禍における中小企業の資金繰りと政策対応」  
著者名：柴本昌彦  
掲載誌，巻，ページ：「マイナス金利環境の下での地域金融機関の経営の現状と課題」  
研究会報告書（2020年度）第2章 33-64頁 2021年3月
- ⑫ 論文名：「日本の新型コロナウイルス感染症拡大の現状と感染リスク」  
著者名：柴本昌彦  
掲載誌，巻，ページ：国民経済雑誌 第222巻第5号 2020年11月
- ⑬ 論文名：「兵庫県と全国の事業継承：2つのアンケート調査をもとにして」  
著者名：柴本昌彦 海野晋悟と共著 家森信善編著  
掲載誌，巻，ページ：『地域金融機関による事業承継支援と信用保証制度』中央経済  
社 第15章 pp.212-224 2020年7月
- ⑭ 論文名：Time horizon of government and public goods investment: Evidence  
from Japan  
著者名：Junichi Yamasaki  
掲載誌，巻，ページ：JOURNAL OF DEVELOPMENT ECONOMICS Vol146 September 2020
- ⑮ 論文名：「都市の歴史に学ぶ未来のまちづくり」  
著者名：小代薫  
掲載誌，巻，ページ：『美しい未来をつくるひとのための15のはなし』神戸大学出  
版会 pp24-32 2021年3月

[著書]

著 書：『鐘紡資料叢書 株主総会編第6巻』（研究叢書83号）

著者名：伊藤宗彦, 國本光正, 加島美和と編著

巻, ページ：6巻, PP.285

発行所, 発行年：神戸大学経済経営研究所 2020年12月

著 書：『鐘紡資料叢書 株主総会編第5巻』（研究叢書82号）

著者名：伊藤宗彦, 國本光正, 加島美和と編著

巻, ページ：5巻, PP.295

発行所, 発行年：神戸大学経済経営研究所 2020年9月

[特許]

特になし

5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

[科学研究費補助金]

○外部資金名: 科学研究費補助金

①研究種目: 基盤研究(B)

代表者名: 西谷公孝

研究タイトル: 社会・環境・経済問題の同時解決を目指すサステナビリティ会計の体系的な研究

受入金額: 5,590,000円

②研究種目: 基盤研究(C)

代表者名: 高槻泰郎

研究タイトル: 山片蟠桃の経済理論とその政策論の再検討

受入金額: 910,000円

③研究種目: 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))

代表者名: 高槻泰郎

研究タイトル: 前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究

受入金額: 5,113,000円

④研究種目: 基盤研究(A)

代表者名: 瀧井克也 研究分担者: 山崎潤一

研究タイトル: 日本の大学入試制度の役割と問題点: 人材の育成と選別の観点から

受入金額: 8,580,000円

⑤研究種目: 若手研究

代表者名: 山崎潤一

研究タイトル: 土地開発に関する阻害要因の実証分析: 江戸時代の土地制度を用いた自然実験的接近

受入金額: 650,000円

⑥研究種目: 基盤研究(C)

代表者名: 後藤潤 研究分担者: 山崎潤一

研究タイトル: 国家建設における政治家のインセンティブ: 議会議事録を用いた計量分析

受入金額: 2,470,000円

⑦研究種目：挑戦的研究（萌芽）

代表者名：中島賢太郎 研究分担者：山崎潤一

研究タイトル：画像データで解き明かす都市の過去・現在・未来

受入金額：4,680,000 円

[受託研究経費]

○外部資金名：科学技術振興機構 未来社会創造事業

研究種目：探索加速型（探索研究）

代表者名：上東貴志

研究課題名：社会リスク推定・意思決定システムの構築

研究タイトル：社会リスク可視化システム、及び社会リスクに適切に対応する意思決定システムの開発

受入金額：1,911,000 円

(2) 受賞（賞名称、受賞対象、受賞者名、授与機関名、受賞年・月）（KUID にあわせる）

1. 2020年10月 神戸大学, 令和2年度神戸大学学長表彰 財務貢献者  
上東 貴志

(3) 特論の実施内容

該当なし

(4) 研究集会の開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

該当なし

(5) その他、研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

該当なし

様式（年次報告書）

令和 3年 4月 27日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		現代中国研究拠点
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経済学研究科 教授 梶谷懐
当該年度	研究員数	8人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 5600千円，受託研究経費 千円， 奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件， 論文発表件数 件， 著書数 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
梶谷懐	経済学研究科	中国経済研究、全体統括
王 柯	国際文化学研究科	中国政治史の実証的研究
緒形康	人文学研究科	中国の歴史、思想の研究
陳光輝	国際協力研究科	中国経済の実証的研究
谷川真一	国際文化学研究科	中国政治の実証的研究
濱田麻矢	文学研究科文化構造専攻	中国文学研究
藤井 大輔	大阪経済大学経済学部講師	中国経済研究、研究参画者
三竝康平	帝京大学経済学部講師	中国経済研究、研究参画者

### 3. 研究成果の概要等について

2021年2月10日は、神戸大学金融研究会との共催で帝京大学の露口洋介先生によるオンライン講演会を開催した。露口先生は以前日本銀行の北京事務所にいらした方で、中国の金融政策分析に関する第一人者です。特にコロナ後の中国の金融政策について詳しくお話しいただいた。

2021年3月6日には、米スタンフォード大 School of Humanities and Sciences の Andrew G. Walder 教授にオンラインでご講演をいただいた。

Walder 先生は中国文化大革命に関する実証的研究の第一人者であり、特に1980年代後半以降に中国で出版された2千冊あまりの地方誌から抽出した情報をもとに、エビデンスに基づいて文革の実態を明らかにする研究を行ってきた第一人者である。講演会では、先生の最新の研究成果をもとに、文革初期の段階においてなぜ敵対的な派閥が形成されたのか、なぜ暴力が勃発し、鎮圧が困難であったのか、といった点に焦点を当てた公演が行われ、活発な議論が展開された。

中国現代史研究会が発行する研究会誌『現代中国研究』に、2019年12月に当プロジェクトの企画として開催された「香港からの緊急報告：研究者・市民との対話」に参加された香港のアクティビスト・區龍宇氏と陳怡氏に寄稿をお願いした。翻訳は両氏の論考を多数翻訳されてきた稲垣豊氏に依頼した。両氏への執筆謝金並びに稲垣氏への翻訳謝金は、本プロジェクトから支出された。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

[論文]

論文名：馬新貽総督の暗殺とその共犯者を追う

著者名：緒形康

掲載誌，巻，ページ：『文学部紀要』（神戸大学文学部）第48号、1-73頁、2021年3月

論文名：周縁への眼差し、周縁からの眼差し——五四運動と大正モダニズム

著者名：緒形康

掲載誌，巻，ページ：『経済史研究』第24号、49-81頁、2021年1月

論文名：宋教仁暗殺事件の二つのシナリオ

著者名：緒形康

掲載誌，巻，ページ：『孫文研究』第67号、1-38頁、2020年12月

論文名：庚子事変における袁許三摺問題

著者名：緒形康

掲載誌，巻，ページ：『孫文研究』第66号、21-44頁、2020年6月

論文名：中国の対外援助と新興国の「早すぎる脱工業化」

著者名：梶谷懐

掲載誌，巻，ページ：『国民経済雑誌』第222巻第2号、1 - 16頁、2020年8月

論文名：Dynamic Efficiency in World Economy

著者名：Kevin Luo, Tomoko Kinugasa, Kai Kajitani

掲載誌，巻，ページ：Prague Economic Papers, Vol. 29, No. 5, pp. 522 - 544, 2020.

論文名：コロナウイルス感染症COVID-19と監視社会

著者名：梶谷懐

掲載誌，巻，ページ：『サービソロジー』第7巻1-4号、15 - 21頁、2021年3月

論文名：中国経済の歴史制度分析に向けて：伝統社会におけるコンベンションの形成

著者名：梶谷懐

掲載誌，巻，ページ：『現代中国研究』第46巻、33 - 50頁、2021年3月

論文名：中日 MeToo 与文学

著者名：濱田麻矢

掲載誌：『日本学研究』31, pp. 95-105, 2020年



[著書]

著 書：『中日国力消長與東亞秩序重構』（共著）

著者名：林泉忠（編）

巻・ページ：第五章「近代中日兩國民族主義的『血縁』關係」, PP. 126-155

発行所，台湾五南出版社

発行年：2021年2月出版

著 書：アジア太平洋研究所編『アジア太平洋と関西（関西経済白書2020）』

著者名：梶谷懐

巻，ページ：「新型コロナウイルスと中国経済—財政金融政策を中心に—」19-24頁

発行所，発行年：アジア太平洋研究所、2020年10月

著 書：川島真・森聡 編『UP plus アフターコロナ時代の米中関係と世界秩序』

著者名：梶谷懐

巻，ページ：「米中通商交渉とその課題——『デカップリング』は現実的か」101-113頁

発行所，発行年：東京大学出版会、2020年12月

著 書：村上衛編『転換期中国における社会経済制度』

著者名：梶谷懐

巻，ページ：1巻，「中国経済における「制度」の連続性をめぐって」207-237頁

発行所，発行年：（京都大学人文科学研究所、2021年1月

著 書：廣野美和編『一带一路は何をもたらしたのか：中国問題と投資のジレンマ』

著者名：梶谷懐

巻，ページ：「一带一路構想は新興国に『債務の罠』をもたらすか」71-89頁、

発行所，発行年：勁草書房、2021年2月

著 書：池本修一編『体制転換における国家と市場の相克』

著者名：梶谷懐

巻，ページ：「『緊縮と反緊縮』からみた中国の経済体制161-177頁

発行所，発行年：日本評論社、2021年2月

著 書：〈母〉を問う 母の比較文学史（共著）

著者名：濱田麻矢 PP. 101-106

発行所，発行年：神戸大学出版会、2021年

5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

該当なし

(2) 受賞 (賞名称, 受賞対象, 受賞者名, 授与機関名, 受賞年・月) (KUID にあわせる)

該当なし

(3) 特論の実施内容

該当なし

(4) 研究集会の開催 (研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る)

該当なし

(5) その他, 研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

該当なし

様式（年次報告書）

令和3年5月6日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		メタ科学技術研究プロジェクト:方法・倫理・政策の総合
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		人文学研究科・文化構造専攻・松田毅
当該年度	研究員数	15人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 24,638 千円，受託研究経費 747 千円，奨学寄附金 2,050 千円，その他（            千円）
	特許出願件数	件，            論文発表件数 34 件，著書数 12 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
伊藤 真之	人間発達環境学研究科	科学技術の政治経済学
塚原 東吾	国際文化学研究科	科学技術の政治経済学
高橋 裕	法学研究科	科学技術の政治経済学
原口 剛	人文学研究科	科学技術倫理
柳川 隆	経済学研究科	科学技術の政治経済学
市澤 哲	人文学研究科	科学方法論
角松 生史	法学研究科	科学技術の政治経済学
茶谷 直人	人文学研究科	科学技術倫理
中 真生	人文学研究科	科学技術倫理
石川雅紀	経済学研究科（名誉教授）	科学技術の政治経済学
大塚 淳	京都大学・文学研究科	科学方法論
板持研吾	法学研究科	科学技術の政治経済学
藤木篤	神戸市看護大学	科学技術倫理
新川拓哉	人文学研究科	科学方法論

### 3. 研究成果の概要等について

#### ・日本学術振興会領域開拓プログラムの推進

本年度も「メタ科学技術研究ワークショップ」(以下 WMST)を中心に、国際シンポジウムも含め 12 回の共同討議の場をもった。共同研究は基本的に共同討議のかたちをとった。また、プロジェクト開始以来の成果が、下記のように、英文の論文集 *Risks and the Regulation of New Technologies*, Kobe University Social Science Research Series として刊行された。本年度の WMST のテーマと提題者詳細と構成員個々の実績の全体は、下記の論文・著書リストおよび「(4)研究集会の開催の項目」を参照されたい。以下では課題ごとに研究成果を、共同討議を軸に報告する。

#### ①先端技術の社会実装のための倫理的・経済的価値観と「ビジョン」の構想と提案

下記に記載のように、「海洋プラスチックごみ」、「脱成長の社会ビジョン」、「パリ協定と気候変動ガバナンス」、「食農倫理学の歴史と現在」、「人新世の環境危機と脱成長コミュニティ」、「食べること」の進化史」のテーマが①に関わる。グローバル市場経済そして食と農を含む生産システムと環境制約、AI やロボットのイノベーションの巨大で複雑な構造とその動態を把握することから、それらの認識を前提に環境適合的オルタナティブな社会、それを実現する法・規範の再組織、「より人間的な」価値観醸成の課題が浮き彫りになった。それはさらに喫緊の課題として、Degrowth か Green Growth かのような社会の針路選択の問題提起と経済学的検討を要求し、AI などのイノベーションが人間の雇用を奪い、現にある貧富などの格差をさらに深刻化させる可能性をもつ点に関する社会倫理的議論を活性化することを促すと考えている。

イノベーションのこうした社会倫理は「ヒト脳オルガノイドの研究倫理」、「COVID-19 の治療薬と予防ワクチン開発をめぐる国際共同臨床試験の倫理」、「新型コロナウイルスワクチンの接種と法的制御」、「人工知能と心」の諸問題にも現れうる。本事業の継続的な主題である生殖技術に関しても社会的手段としての「養子縁組と不妊治療」でこの問題に関する日本の現状を認識し、討議する機会をもった。

各ワークショップの内容詳細は <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/mst/activity.html> に掲示しているほか、第 54 回までの要約を人文学研究科研究科オープンジャーナル『21 世紀倫理創成研究』14 号に掲載した。

#### ②問題討議のためのツールと手法の開発・試行・社会実装

この課題については、コロナ禍により密になりやすい、対面のワークショップやシンポジウムなどの開催が困難となり、独自の手法の開発、その試行や社会実装に進むことができなかった。しかし、Zoom、本プロジェクトの下記サイトの報告内容、関連のジャーナルなどを組み合わせて用い、オンラインのワークショップやハイブリッド形式で問題なく行った。このことは、こうした条件下で討議の方法を示唆していると考えられる。また、代表者が担当しているプロジェクト型演習で文学部生や人文学研究科大学院生の受講者と協力し、意思決定カードゲーム「クロスロード」の「コロナウイルス感染症」版の制作を試みたが、生命と環境に関する技術の社会実装に関する社会的意思決定問題にも応用することができるという感触を得た（「クロスロード」に関しては「震災とアスベストリスク」

に関するものを制作、実演し、関係の専門家や市民からも高い評価を得ている)。

なお 2021 年 9 月に 3 日間の日本応用哲学会のサマースクールとして、本事業の成果を参画した研究者を中心に、大学など高等教育の場や市民向けの企画を行う予定である。

・研究成果の国際共著での発信：*Risks and Regulation of New Technologies*. Springer, Kobe University Social Science Research Series. Springer (松田毅、Jonathan Wolff オクスフォード大学教授、柳川隆・経済学研究科教授の共同編集)を刊行した。英国、ドイツ、中国を含め、これまで開催した国際ワークショップの報告者を中心に、内外の研究者 20 名が以下のような 15 編の論文を寄稿した。

○Part 1. Socio-humane Sciences of New Technology

- 1.Wolff (オクスフォード大学)：Risk and the Regulation of New Technology
- 2.Matsuda (神戸大学)：The Gradation of the Causation and the Responsibility focusing on “Omission”
- 3.Otsuka (京都大学)：Ockham’s Proportionality: A Model Selection Criterion for Levels of Explanation

○Part 2. Reproductive Technology and Life

- 1.Ishi (北海道大学)：Enforcing legislation on reproductive medicine with uncertainty via a broad social consensus
- 2.Yan&Kang (大連理工大学など)：Gene Editing Baby in China: From the Perspective of Responsible Research and Innovation
- 3.Itamochi (神戸大学)：Posthumously Conceived Children and Succession from Perspective of Law
- 4.Chatani (神戸大学)：Aristotle and Bioethics
- 5.Naka (神戸大学)：Reinterpreting Motherhood: Separating Being a “Mother” from Giving Birth

○Part 3. Environmental Technology

- 1.Ott (キール大学)：Domains of Climate Ethics
- 2.Yanagawa (神戸大学)：Electricity Market Reform in Japan: Fair Competition and Renewable Energy
- 3.Takeuchi&Miyamaoto (神戸大学など)：Renewable energy development in Japan
4. Hoshi (神戸大学)：Adverse effects of pesticides on regional biodiversity and their mechanisms
5. Fujiki (神戸市立看護大学)：Reconsidering Precautionary Attitudes and Sin of Omission for Emerging Technologies: Geoengineering and Gene Drive

○Part 4. Science and Society

1. Kawamura, Yoshinaga, Kawamoto, Tanaka, Shineha (大阪大学など) et al：Exploring the contexts of ELSI and RRI in Japan: Case studies in dual-use, regenerative medicine, and nanotechnology
- 2.Tsukahara (神戸大学)：Global climate change and uncertainty: An examination from the history of science

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

1. MATSUDA Tsuyoshi, 2021年1月“The Gradation of the Causation and the Responsibility focusing on “Omission””, *Risks and Regulation of New Technologies*, Springer. Ed by. Matsuda. T., Wolff. J., Yanagawa. T., (RRNTと略、ISBN978-981-15-8688-0) 19-46.
2. 松田毅「不可得の論理：アナロジーか即非か——鈴木大拙と南方熊楠の往復書簡」『現代思想』2020年11月臨時増刊号 282-289.
3. 松田毅「現実の現実性（承前・完結）——「唯一の世界」の存在論」神戸大学哲学懇話会『愛知』31号 2020年9月 2-73.
4. 松田毅「新型コロナウイルスをめぐる公衆衛生倫理の問題——科学技術倫理の観点から」『倫理創成研究』14号、2021年3月 30-60.
5. TSUKAHARA Togo, 2021年1月“Global Climate Change and Uncertainty: An Examination from the History of Science” RRNT, 291-312.
6. TSUKAHARA Togo, Hisayuki Kubota, Jun Matsumoto, Masumi Zaiki, Takehiko Mikami, Rob Allan, Clive Wilkinson, Sally Wilkinson, Kevin Wood & Mark Mollan, “Tropical cyclones over the western north Pacific since the mid-nineteenth century” *Climatic Change*, volume 164, Article 29 (2021) オンラインで頁数なし（国際共著）
7. TSUKAHARA Togo, Jianjun Mei, “Putting Joseph Needham in the East Asian Context: Commentaries on Papers about the Reception of Needham's Works in Korea and Taiwan” DUKE UNIV PRESS, 2020年06月, *EAST ASIAN SCIENCE TECHNOLOGY AND SOCIETY-AN INTERNATIONAL JOURNAL*, 14 (2), 403-410（国際共著）
8. 塚原東吾「コロナから発される問い」『現代思想』、5月号 145-155. 2020
9. 塚原東吾「気候正義と科学史: 科学論の観点から見て『人新世』が提起していること」（小特集人新世と地学史）『地質学史懇話会会報』(54), 72-78, 2020-05-30
10. 村中泰子・米谷淳・伊藤真之・蛭名邦禎・シギナシ=ミハエラ「ROOT フォローアップー基礎ステージにおけるルーブリック評価とレジリエンスの評価ー」『大学教育研究』29号 2021年3月 77-92.
11. 石川雅紀「経済的構造変化と廃棄物管理-グローバルな視点から日本の今後の循環政策を展望する」『都市清掃』360号 2021.03.01、108-113.
12. 中真生「生殖における「間接性」——父親と養親の視点から」『科学研究費・基盤研究(B)北欧現象学者との共同研究に基づく人間の傷つきやすさと有限性の現象学的研究 研究成果報告書』Osaka University Knowledge Archive ([https://ir.library.osaka-ac.jp/repo/ou\\_ka/all/77129/](https://ir.library.osaka-ac.jp/repo/ou_ka/all/77129/)) 2020. 39-64.
13. 中真生「生むことから分離した「親」の形成——父親と養親の「間接性」を手がかりに」神戸大学文学部哲学懇話会編『愛知』31.2020.74-94.
14. NAKA Mao, “Reinterpreting Motherhood: Separating Being a “Mother” from Giving Birth.” RRNT, 153-170.
15. CHATANI Naoto, “Aristotle and Bioethics.” RRNT, 135-152.
16. 茶谷直人「アリストテレスにおける自己愛と『うるわしいもの』」『神戸大学文学部紀要』48.2021. 1-21.

17. 高橋裕「高齢弁護士の引退と依頼者のニーズ-分析への予備的検討」『シンポジウム弁護士の花道と依頼者—高齢化社会における弁護士会の役割』予稿集 2021.3.7.30-36
18. 角松生史「指定管理者による公の施設の管理と国家賠償責任の所在」『国民経済雑誌』222巻1号 49-68、2020.7
19. KADOMATSU Narufumi, “The Formation of Regional Spaces by Agreements” *Zeitschrift für Japanisches Recht (Journal of Japanese Law)* No.50 (2020), 49-63.
20. Kato, T., Kudo, Y., Miyakoshi, J., OTSUKA J., Saigo, H., Karasawa, K., Yamaguchi, H., Hiroi, Y., and Deguchi. Y. (2020). “Sustainability and Fairness Simulations Based on Decision-Making Model of Utility Function and Norm Function”, *Applied Economics and Finance* 7(3): 96-114. DOI: <https://doi.org/10.11114/aef.v7i3.4825>. 2020.05、
21. Kato, T., Kudo, Y., Miyakoshi, J., OTSUKA J., Saigo, H., Karasawa, K., Yamaguchi, H., and Deguchi. Y. (2020). “Rational Choice Hypothesis as X-point of Utility Function and Norm Function”, *Applied Economics and Finance* 7(4): 65-77. DOI: <https://doi.org/10.11114/aef.v7i4.4890>. 2020.07
22. 田口茂・大塚淳・西郷甲矢人(2020)「現象学的明証論と統計学-経験の基本的構造を求めて」『哲学論叢』47: 20-34. 2020
23. OTSUKA J., “Ockham's Proportionality: A Model Selection Criterion for Levels of Explanation”. RRNT, 47-64.
- 24.北川眞也・原口剛「ロジスティクスによる空間の生産—インフラストラクチャー、労働、対抗ロジスティクス」『思想』第1162号、2021.1.27.78-99.
25. Fujiki, A. “Reconsidering Precautionary Attitudes and Sin of Omission for Emerging Technologies: Geoengineering and Gene Drive.” RRNT,249-267.
26. ITAMOCHI Kengo “Posthumously Conceived Children and Succession from a Legal Perspective”, RRNT, 111-134.
27. NIIKAWA Takuya “Where is the Fundamental Disagreement between Naive Realism and Intentionalism?” *Metaphilosophy*. 51(4), 2020年7月 593-610.
28. Katsunori Miyahara, NIIKAWA Takuya, Hiroaki Hamada and Satoshi Nishida, “Developing a short-term phenomenological training program: A report of methodological lessons”, *New Ideas in Psychology*. 58, 2020年8月 オンライン版 (17頁相当)
29. NIIKAWA Takuya, Katsunori Miyahara, Hiroaki Hamada and Satoshi Nishida, “A new experimental phenomenological method to explore the subjective features of psychological phenomena: its application to binocular rivalry”, *Neuroscience of Consciousness*. 2020(1) 2020年10月. オンラインジャーナル、16頁相当
30. NIIKAWA Takuya, “Naïve Realism and Phenomenal Intentionality”, *Philosophia* (online first), 2020年10月.17頁相当
31. NIIKAWA Takuya, “A Map of Consciousness Studies: Questions and Approaches”, *Frontiers in Psychology*. 11, 2020年10月.12頁相当、
32. NIIKAWA Takuya, “Illusionism and Definitions of Phenomenal Consciousness”, *Philosophical Studies*. 178, 1-21, 2021年1月
33. 新川拓哉、坂口秀哉、澤井努「ヒト脳オルガノイドの意識をめぐる哲学・倫理的考察—予防原則の観点から」『21世紀倫理創成研究』第14巻、2021年3月 61-84.

34. Tsutomu Sawai, Yoshiyuki Hayashi, NIKAWA Takuya, Joshua Shepherd, Elizabeth Thomas, Tsung-Ling Lee, Alexandre Erler, Momoko Watanabe & Hideya Sakaguchi, “Mapping the Ethical Issues of Brain Organoid Research and Application”, *AJOB Neuroscience*, 2021 年 3 月現在オンライン版のみ公開のためページ数なし (国際共著)

[著書]

1. 松田毅『夢と虹の存在論——身体・時間・現実を生きる』講談社 2021 年 4 月全 353 頁
2. MATSUDA Tsuyoshi. *Risks and Regulation of New Technologies*, Jonathan Wolff., Yanagawa Takashi と共編著 Springer. ISBN978-981-15-8688-0, 2021 年 1 月.312p (国際共著)
3. 松田毅『世界哲学史 VI』(共著)伊藤邦武他編、筑摩書房(担当箇所「時空をめぐる論争」70-71) 2020 年 6 月
4. 塚原東吾『科学技術社会論とは何か』(共著)藤垣裕子責任編集、科学技術社会論の挑戦 第 1 巻東京大学出版会 (担当箇所「東アジアと欧州の STS」161-193) 2020 年 4 月
5. 塚原東吾・井上雅俊『ものがつなぐ世界史』(共著)ミネルヴァ世界史叢書5、桃木至朗・中島秀人編集(担当箇所「ウラニウム：現代史における原子力性」363-385) 2021年3月
6. 塚原東吾『コロナ禍をどう読むか: 16 の知性による 8 つの対話』(共著)奥野克巳・近藤社秋・辻陽介編、亜紀書房(担当箇所「平田周との対談」369-427) 2021 年 2 月
7. 塚原東吾『現代のバベルの塔: 反オリンピック・反万博』(共著)新教出版社編集部編(担当箇所「オリンピックとカジノ万博は現代のバベルの塔か?: 科学技術とプロテスタンティズムの倫理、125-138.新教出版社、2020年6月
8. Shinichi Kusanagi, Takashi YANAGAWA eds., *Privatization of Public City Gas Utilities*, Springer, 2021, 全143頁
9. 中真生『因果・動物・所有 一ノ瀬哲学をめぐる対話』(共著)宮園健吾・大谷弘・乗立雄輝編、武蔵野大学出版会(担当箇所「『死の所有』と生のリアリティ」159-192.2020
10. Narufumi KADOMATSU, James J. Kelly Jr., Romain Melot, Arne Pilniok, *Legal Responses to Vacant Houses: An International Comparison*, (Springer, 2020.8) ISBN 978-981-15-6641-7 (国際共著)
11. 大塚淳『統計学を哲学する』名古屋大学出版局 2020 年 10 月全 242 頁
12. Glen Miller, Xiaowei (Tom) Wang, Satya Sundar Sethy and Atsushi FUJIKI, (2020).Ch.4. Eastern Philosophical Approaches and Engineering. In *The Routledge Handbook of the Philosophy of Engineering*. 50-65. Routledge. (Fujiki involved in writing Section 3. Japanese Philosophical Approaches and Engineering. 57-61) (国際共著)



## 5. 関連活動及び特記事項

### (1) 外部資金等

○科学研究費補助金 研究種目：基盤研究(C) 代表者名：松田毅  
研究課題名：ライブニッツ存在論の研究：生物、時間、経済を焦点に  
受入金額：1,040,000 円

研究種目：基盤研究(B) 代表者名：藤木篤  
研究課題名：「工学の学際的发展に対応する新たな工学倫理フレームワークの構築」  
受入金額：520,000 円（分担分）

○受託研究 代表者名：松田毅  
研究題名：独立行政法人日本学術振興会「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業領域開拓プログラム」に本プロジェクトの「生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21世紀型参加のビジョンと試行—」 受入金額：747,500 円

○科学研究費補助金（伊藤真之前年度繰り越し分）  
研究種目：挑戦的研究（萌芽） 代表者名：伊藤真之  
研究課題名：バーチャルリアリティ技術を利用した宇宙教育プログラムの開発と展開  
受入金額：1,060,757 円

○科学研究費補助金（塚原東吾分）  
研究種目：基盤研究(C) 代表者名：塚原東吾  
研究課題名：トランスサイエンスからポストノーマルサイエンスへ  
受入金額：650,000 円

研究種目：基盤研究(B) 代表者名：太田 淳  
研究課題名：植民地期東南アジアにおける気候変動と社会変容—人文歴史気象学の創成  
受入金額：400,000 円（分担分）

研究種目：挑戦的研究(開拓) 代表者名：久保田 尚之  
研究課題名：江戸時代の外国船の航海日誌に記載された気象データから復元する日本近海の台風活動 受入金額：400,000 円（分担分）

研究種目：基盤研究(A) 代表者名：松本 淳  
研究課題名：航海日誌に記録された気象観測資料による南シナ海モンスーンの長期変動史  
受入金額：2,600,000 円（分担分）

研究種目：基盤研究(B) 代表者名：慎 蒼健  
研究課題名：戦後日本の海外技術援助・協力に関する科学技術史研究  
受入金額：900,000 円（分担分）

○科学研究費補助金（柳川隆分）

研究種目：基盤研究(A) 代表者名：根岸哲

研究課題名：プラットフォームとイノベーションをめぐる新たな競争政策の構築

受入金額：200,000 円（分担分）

○科学研究費補助金（市澤哲分）

研究種目：基盤研究(C) 代表者名：市澤 哲

研究課題名：日本中世の地域秩序および地域政治史の展開に関する研究—播磨国を中心に

受入金額：650,000 円

研究種目：基盤研究（C）研究代表者：川合康

研究課題名：河内国金剛寺文書にもとづく中世地域社会史の研究

受入金額：25,000 円（分担分）

○科学研究費補助金（茶谷直人分）

研究種目：基盤（C）代表者名：茶谷直人

研究課題名：プネウマからガイストへ—古代ギリシアからゲーテにいたる人間三元論の系譜

受入金額：1,040,000 円

研究種目：基盤（B）代表者名：近藤智彦

研究課題名：アリストテレス倫理学の再定位を通じた新たな自然主義的倫理学の構想

受入金額：130,000 円（分担分）

○科学研究費補助金（中真生分）

研究種目：基盤研究（C）代表者名：中 真生

研究課題名：「生殖」から見る倫理学—ジェンダー・身体・他者を軸に

受入金額：910,000 円

研究種目：国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 代表者名：浜渦辰二

研究課題名：子育ての現象学：フィンランド・ネウボラをフィールドに

受入金額：90,000 円

○科学研究費補助金（角松生史分）

研究種目：基盤研究（B）代表者名：角松生史

研究課題名：空間と法の相互規定性から見た公法学の再構築—学際的アプローチ

受入金額 1,550,000 円

研究種目：国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) 代表者名：角松生史

研究課題名：人口減少時代における東アジア4法域（日韓台中）の土地収用制度の比較研究

受入金額：2,700,000 円

研究種目：挑戦的研究(萌芽) 代表者名：角松 生史

研究課題名：法的判断における「良い議論」とは何か—法学と議論学の協働による接近

受入金額：500,000 円

○科学研究費補助金（高橋裕分）研究種目：基盤研究（S）代表者名：佐藤岩夫

研究課題名：超高齢社会における紛争経験と司法政策

受入金額：50,000 円（分担分）

○科学研究費補助金（原口剛分）研究種目：基盤研究（C）代表者名：櫻田和也

研究課題名：釜ヶ崎史料を基点とした地域情報アーカイブの実践的研究

受入金額：112,467 円（分担分）

○外部資金：大学発アーバンイノベーション神戸 代表者名：佐々木祐

研究題目：「病」と「厄災」をめぐる比較都市史的研究：感染症対策と公衆衛生言説を中心に

受入金額：250,000 円（分担分）

○科学研究費補助金（大塚淳分）

研究種目：基盤研究(C)(一般) 代表者名：大塚淳

研究課題名：次世代進化論に向けた構造存在論の数理的発展

受入金額：1,450,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金 研究種目：若手研究 B

代表者名：板持研吾

研究課題名：地方自治における住宅コミュニティの位相：日英米の比較研究

受入金額：700,000 円

信託協会信託研究奨励金

代表者名：板持研吾 研究題目：英国における土地の信託と登記に関する法律問題

受入金額：500,000 円

一般財団法人 知的財産研究教育財団 知的財産研究所 特許庁委託 産業財産権制度調和に係る共同研究調査事業 代表者名：板持研吾

研究題目：英米における人的財産権と知的財産権

受入金額：0 円（出張経費等の支給を受けた）

○科学研究費補助金（藤木篤分）

研究種目：基盤研究(B) 代表者名：藤木篤

研究課題名：工学の学際的発展に対応する新たな工学倫理フレームワークの構築

受入金額：2,350,000 円

研究種目：挑戦的研究(開拓) 代表者名：藤木篤

研究課題名：遺伝子ドライブの倫理的・法的・社会的諸課題に関する学際融合研究

受入金額：4,200,000 円

公益財団法人 セコム科学技術振興財団 平成 31 年度特定領域研究助成

代表者名：三成寿作 研究課題名：ゲノムデザイン研究における開かれたガバナンスの再考

受入金額：400,000 円 (分担分)

公益財団法人 倉田奨励金 人文・社会科学研究部門

代表者名：藤木篤

研究課題名：遺伝子ドライブの倫理的・法的・社会的課題に関する環境衛生倫理的考察

受入金額：900,000 円

○科学研究費補助金 (新川拓哉分)

研究種目：基盤研究(C) 代表者名：新川拓哉

研究課題名：意識の構造についての神経現象学的研究

受入金額：700,000 円

研究種目：基盤研究(C) 代表者名：宮原克典

研究課題名：習慣を中核にすえた新たな心の哲学と心の科学の展開

受入金額：110,000 円 (分担分)

(2) 受賞 なし

(4) 研究集会の開催 (研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る)

新型コロナウイルスの影響によりすべてオンラインで開催した。

①第45回MSTワークショップ 2020年6月12日 「ヒト脳オルガノイド研究をめぐる倫理的課題」 提題者：澤井努・京都大学高等研究院ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) 特定助教  
新川拓哉・神戸大学人文学研究科講師

②第46回MSTワークショップ 2020年6月26日

「海洋プラスチックごみ問題—わかっていることとわかっていないこと」

提題者：石川雅紀・NPO法人ごみじゃぱん代表理事、神戸大学経済学研究科名誉教授

③第47回MSTワークショップ 2020年7月10日

「トランジション・デザインと脱成長—文化と経済の関係を再考する」

提題者：中野佳裕・早稲田大学地域間研究機構次席研究員／研究院講師

④第48回MSTワークショップ 2020年7月31日

「パリ協定と気候変動ガバナンスの現在」

提題者：伊与田昌慶・特定非営利活動法人気候ネットワーク主任研究員

⑤第49回MSTワークショップ 2020年8月7日

「なぜ養子縁組は不妊当事者に選択されないのか？」

提題者：野辺陽子・大妻女子大学准教授

⑥第50回MSTワークショップ 2020年9月11日

「科学技術と社会のつながりについての二つの話題：超学際研究と社会的受容性」 提題者：神崎宣次・南山大学教授

⑦第51回MSTワークショップ 2020年10月30日

「国際共同臨床試験の倫理：COVID-19治療薬・予防ワクチン開発をめぐって」  
提題者：栗原千絵子・国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構、信頼性保証・監査室主任研究員

⑧第52回MSTワークショップ 2020年11月26日

「〈食べる〉のどこに倫理はあるのか？：食農倫理学の長い旅」  
提題者：太田和彦・総合地球環境学研究所助教

⑨第53回MSTワークショップ 2021年1月7日

「人新世の環境危機とマルクスの脱成長コミュニティ」  
齋藤幸平・大阪市立大学経済学研究科准教授

⑩第54回MSTワークショップ 2021年1月22日

「新型コロナウイルスワクチンの接種と法的制御」  
下山憲治・一橋大学大学院法学研究科教授

⑪第55回MSTワークショップ（第4回国際ワークショップ）2021年3月16日

*In what sense can AI have a mind?*（ハイブリッド形式で開催）

基調講演 Tim Crane (Central European University): “AI Fantasies and the AI Reality: Sceptical Reflections”

谷口忠宏(立命館大学) “Symbol Emergence in Robotics: Towards Emergence of Mind through Physical and Semiotic Interaction”

杉本舞(関西大学) “Metaphor Guides the Direction of Research: How Computers Have Been Analogized to Brains”

宮原克典(北海道大学) “Intentionality, Normativity, and Habit”

新川拓哉(神戸大学) “Conscious AI and Cognitive Phenomenology”（70名の事前登録）

⑫第56回MSTワークショップ 2021年3月22日

「食べること」の進化史」 提題者：石川伸一・宮城大学教授

(5) その他, 研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

様式（年次報告書）

令和3年5月13日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		人文情報の文理融合研究と地域学創出
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		奥村弘・人文学研究科・社会動態・奥村弘
当該年度	研究員数	12人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 76,440 千円，受託研究経費 7,067 千円，共同研究 9,774 千円，受託事業 8,700 千円，共同事業 12,000 千円
	特許出願件数	件，論文発表件数 7 件，著書数 1 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
奥村 弘	人文学研究科・社会動態専攻・教授	総括責任者
市澤 哲	人文学研究科・社会動態専攻・教授	地域社会と歴史学についての研究
北後 明彦	都市安全研究センター・教授	地域社会と安全安心に関わる文理融合研究
槻橋 修	工学研究科・建築学専攻・准教授	地域社会と記憶に関わる研究
古市 晃	人文学研究科・社会動態専攻・教授	地域学創出に関わる歴史研究
増記 隆介	人文学研究科・社会動態専攻・准教授	地域学創出に関わる美術史研究
松下 正和	地域連携推進室・特命准教授	地域学創出のための実践的研究
久留島 浩	国立歴史民俗博物館・館長	地域歴史文化についての実践的研究
後藤 真	国立歴史民俗博物館・准教授	人文情報学による実践的な地域文化創出の研究
日高 真吾	国立民族学博物館・准教授	文化財保存科学と関連する文理融合研究
佐藤 大介	東北大学災害科学国際研究所・准教授	歴史資料保存活用を通じた地域学の創出研究

### 3. 研究成果の概要等について

- ① 昨年度は、地域学創出については、コロナ渦にあって、実践的な研究は極めた困難であったが、2020年12月19日の地域連携協議会を「古文書を読む、楽しむ、活かすーコロナ禍の中で考えるー」をテーマに、初のオンラインで開催、県内を中心に参加者は39機関89名となり、コロナウイルス感染症が地域に拡大していく中で、地域学の実践的な展開について議論を深めるとともに、参加団体が地域で具体的な活動を行うための指針をしめすことができた。また、県内の自治体を中心とした約30の個別事業について、地域学創出のための分析を行い、その成果を神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターの2020（令和2）年度の「歴史文化に基礎をおいた地域社会形成のための自治体等との連携事業報告書」として集約した。さらに研究内容の全国的な発信を、2020年11月29日（日）地域歴史文化フォーラム福島「東日本大震災・原発事故の記録・記憶を伝えるーふくしまの史料保全活動の10年ー」、2021年2月20・21日「第7回全国史料ネット研究交流集会」（歴史資料保全NW事業主催、オンライン開催）において進めた。国際的には、5月に神戸大学大学院人文学研究科・ハンガリーエルテ大学・イーストアングリア大学・国立歴史民俗博物館・ハンガリー国立博物館との歴史文化遺産についての共同研究の協定が締結され、国際的なプラットフォームが形成された。その一環として、欧州委員会が2018年に作成した報告書”Innovation in Cultural Heritage Research-For an integrated European Research Policy”（仮訳「文化遺産研究の最前線ー統合的応酬研究政策のために」）の翻訳・研究を進め、その翻訳草稿を完成し、報告書として刊行した。このほか、神戸市が若手研究者の研究活動を補助する「大学発アーバンイノベーション神戸」事業において、神戸市での歴史文化遺産の保存活用を主題とした申請が2件採択された。
- ② 人文情報の分離融合研究の分野では、災害時の文化遺産の保存のための情報共有手法の開発をすすめ、今年度は、先に記載した第10回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係わる情報交換会や、中播磨地域で行われた2020年9月7日「兵庫県文化財防災研修会」において、文化財専門職員に対する報告として集約し、一昨年度に比べ、より地域の実情に即した内容に更改した。またその成果を、科学研究費助成事業・特別推進研究「地域歴史資料学を基軸とした災害列島における地域存続のための地域歴史文化の創成」と連携した研究会（2021年2月22日 第10回被災地図書館との震災資料の収集・公開に係わる情報交換会、2021年3月20日地域歴史資料継承領域オンラインシンポジウム等）に反映させた。さらにサンテレビと協力して、阪神・淡路大震災のテレビ映像を研究資料として保存公開していくための研究会を3度にわたって行い、その一部は附属図書館震災文庫において公開されることとなった。さらに国立歴史民俗博物館の情報部門と共同研究を進め、新たなデジタル歴史資料保存公開システム（麒麟C）のプロトタイプを完成、

国立歴史博物館のサーバーから、関係者内での閲覧が可能となった。この成果については、神戸大学、東北大学、国立歴史民俗博物館が基幹となって展開している歴史資料保全ネットワーク事業が主催する2021年3月28日「地域歴史文化大学フォーラム」において、その内容が報告された。



#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

「※」印は、研究成果の切り分けが難しく、複数のプロジェクトから成果として報告する

##### [論文]

奥村弘・小野塚航一「歴史資料ネットワーク発足二五年―続発する大規模水害の中での保全活動の展開―」『日本史研究』699号、48-58頁、2020年 ※

古市晃「国家形成史研究の方法と課題：仁藤敦史氏の批判に寄せて」『歴史科学』242号、5-8頁、2020年

日高真吾「地域文化の活用を目指して」『民具研究』161号、43-54頁、2020年 ※

日高真吾「災害と地域文化―研究者が果たす役割」『民俗藝術学会誌 arts/』vol. 36、42-45頁、2020年 ※

松下正和「襖・屏風下張り文書の保全と活用―住民参加型事例を中心に 小特集にあたって」『LINK【地域・大学・文化】』12号、72-76頁、2020、※

後藤真他「コロナ禍における地域資料の調査と情報共有・公開：岩手県奥州市を事例として」『情報知識学会誌』30巻4号 477-480頁

市澤哲・古市晃他「歴史研究の隣人たち：第1回 家じまいアドバイザー® 屋宜明彦さん（インタビューシリーズ）」『Link：地域・大学・文化：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報』第11巻、63-88頁、2020年

##### [著書]

奥村弘他『被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会報告書』2021年、神戸大学人文学研究科、1-38頁

5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：明石市における地域史料等の調査研究業務委託

受入金額：4,100,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：朝来市石川家文書の史料調査研究ならびに山田家文書調査に係る  
指導助言

受入金額：500,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：令和元年度加西市戦争遺跡総合調査委託

受入金額：2,467,098 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：歴史資料の公開に関する研究

受入金額：1,494,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：兵庫県丹波市における地域資源としての歴史文化遺産(古文書等)  
の調査

受入金額：1,870,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：福崎町の地域歴史遺産掘り起こし

受入金額：2,200,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：小野市小野地区歴史調査及び小野藩家老伊藤家文書を用いた小野市  
の幕末から明治期の歴史研究

受入金額：200,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：兵庫県丹波篠山市における市史編さん事業のための研究と検討

受入金額：3,829,726 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：旧三田藩主九鬼家資料の総合調査

受入金額：180,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：三木市史編さん事業

受入金額：8,700,000 円

○外部資金名：産学連携等経費

代表者名：奥村弘

研究課題名：歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業

受入金額：12,000,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：特別推進研究

代表者名：奥村弘

研究課題名：地域歴史資料学を基軸とした災害列島における地域存続のための  
地域歴史文化の創成

受入金額：76,440,000 円

(2) 受賞（賞名称，受賞対象，受賞者名，授与機関名，受賞年・月）（KUID にあわせる）

該当なし

(3) 特論の実施内容

該当なし

(4) 研究集会の開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

該当なし

(5) その他，研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

該当なし

様式（年次報告書）

2021年 5月 2日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		移住・多文化・福祉政策に関する国際的研究拠点の形成
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		国際文化学研究科・文化関連専攻・坂井一成
当該年度	研究員数	5人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 4,500千円，受託研究経費 11,609千円，奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件，論文発表件数 8件，著書数 2件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
坂井一成	国際文化学研究科	全体統括、「移民をめぐるガバナンス」分析（政治学分野）及び統括
太田和宏	人間発達環境学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（アジア地域）
関根由紀	法学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（法学分野）
青山薫	国際文化学研究科	「国境を越える親密性／公共性」分析統括
岡田浩樹	国際文化学研究科	「多文化主義のローカル化とナショナリズム」分析統括
井上弘貴	国際文化学研究科	「移住者にとっての境界線と人権」分析統括補佐
青島陽子	国際文化学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析統括補佐
樋口大祐	人文学研究科	「移民動態と文化適応」分析（地理学分野）
佐々木祐	人文学研究科	「移民動態と文化適応」分析（社会学分野）
浅野慎一	人間発達環境学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（社会学分野）

吉井昌彦	経済学研究科	「移民をめぐるガバナンス」分析（経済学分野）
桜井徹	国際文化学研究科	「移住者にとっての境界線と人権」分析統括
藤野一夫	国際文化学研究科	「移民と統合のための文化政策」分析統括
辛島理人	国際文化学研究科	「移民動態と文化適応」分析統括

### 3. 研究成果の概要等について

#### ① 移住者にとっての境界線と人権

本年度は、共同研究の成果として Routledge 社から近々刊行が予定されている *Can Human Rights and Nationalism Coexist?* の完成に向かって、メンバー相互の意見交換を行いつつ、各章の原稿執筆のための作業に従事した。

メール上において様々な意見・情報をやり取りしたのち、2021年2月16日には、神戸セミナー2021において、上掲書に寄稿する予定の著者のうち3人が自らの研究成果について詳細な報告を行ったほか、1人がコメンテーターを務め、報告に関する質疑応答と意見交換を通して同書の改善・推敲に努めた。

#### ② 移民をめぐるガバナンス

本年度は、共同研究の成果として Routledge 社から刊行予定の論文集シリーズの1つとなる *Migration Governance in Asia - a Multi-level Analysis* の作成を推進した。各章を担当する内外のメンバーとメールで意見交換を続けて各自が執筆を進め、Routledge 社の編集者との交渉も進めた。

#### ③ 国境を越える親密性／公共性

中心的に行う予定であった移住性労働および人身取引に関する調査・分析については、進展を見なかった。新型コロナウイルス感染防止のため、対象および協力地域と想定していたタイ、フランス（第3国）、台湾（第3国）、日本の間の渡航を相互に自粛せざるを得なかったことが理由である。準じて、タイとフランスで予定していた研究報告会とセミナー、神戸での成果発表も延期した。また、これら遅延のため、英語論文集のプロポーザルについても、内容を変更するに至り、提出を2021年度前半にするよう予定を変更した。

#### ④ 多文化主義のローカル化とナショナリズム

ワークショップへの相互招待、共同発表・共著論文執筆に向け、具体的な準備を行うことができた。韓国側研究者の日本での共同調査研究、ベトナムでの共同研究プロジェクトを開始し、共同研究調査、若手研究者交流の体制を整えることができた。また、本プログラムで開催する国際ワークショップ、シンポジウムに加え、韓国、ベトナムでの国際ワークショップに日本側研究者の招待が決定し、今後共著論文も含めた共同の研究成果の公表への道筋ができた。

韓国との共同研究内容の面では、東アジアにおける移民・移住労働を検討する上で、中国（朝鮮族）、ブラジル（日系ブラジル人）などの存在は、ナショナリズムにおける民族主義の問題や多文化主義の東アジアローカル化の問題を検討するために重要であることが明確となり、このテーマを扱う拠点国の研究者だけでなく、中国、ブラジルの研究者を含めた研究ネットワークを構築する準備を進めた。

また、ベトナムに関しては、日本や韓国への「研修生」出身地域が、メコン・デルタ農村部、特にカンボジア国境に集中するようになり、それらの農村地域の地域社会が変貌すると同時に、ベトナム国内の労働移住にも影響を与えている実態についての予備的調査を開始した。一方、ベトナムにはカンボジア、ラオスなどから労働者が流入すると同時に、日本や韓国への研修生も増加している状況が把握され、今後移民・移住労働の問題を二国間だけでなく、地域間移動、変動の問題として捉え、当南アジア諸社会、日本・韓国・台湾の複数間移動を視野に入れる必要があることが明らかになった。今後、各拠点大学を核としながらそれ以外の第三国（中国・ブラジル・ラオス・カンボジア）に関する研究交流に向けた準備を進めた。

#### ⑤ 移民と統合のための文化政策

本年度は神戸ワークショップの枠組みで、シンガポールの外国人労働者問題と文化政策の関係についての発表とディスカッションを行った。シンガポールは、華人、マレー系、インド系、その他から成る「多人種主義」国家である。現在、高度専門職人材を含めると、シンガポールの人口の3分の1が外国人である。シンガポール政府は、1971年よりタイ・スリランカ・フィリピンから女性家事労働者を、1981年からインド・バングラデシュ、スリランカから建設業に従事する男性の外国人労働者を、受け入れ始めた。

さて、シンガポールの外国人労働者の人権問題は、市民社会側が1980年より取り上げてきた。一方、政府はこれを「繊細な問題」として、真正面から扱っていない。2020年の新型コロナ危機では、建設業に従事する外国人労働者の寮でクラスターが発生した。グローバル化が進んだ2010年代より、シンガポール政府は、外国人労働者寮の劣悪な環境を新聞で報じてきた。だが、今回の新型コロナ危機によって、改めて外国人労働者の人権問題が浮上した。一方の女性家事労働者らは、毎週日曜日に「ラッキープラザ」と呼ばれるビルに集まり普段のストレスを発散させることが常だった。しかし、新型コロナの影響によって、彼女らの憩いの場が政府によって奪われた。

本ワークショップでは、シンガポールの多人種主義、ジェンダー、外国人労働者問題に詳しいDanniel Goh 准教授（シンガポール国立大学文化研究センター）の発表をもとに、討論者の鈴木 弥香子（立教大学）および司会者の南田明美（九州大学）を交えて、シンガポールの外国人労働者、多文化共生、コミュニティの問題について議論した。

#### ⑥ 移民動態と文化適応

本プロジェクトや他の学内予算、さらに科研などを用いた会議開催と研究者の派遣を通じて海外機関との関係構築を進めてきた。その成果として、メキシコの研究者と国際共著出版を出すことができた。また、12月に開催した本プロジェクトによる研究集会に、小説家である温又柔氏と木村友祐氏、メキシコ研究者で翻訳者の鋤柄史子氏、劇作家で俳優の浜辺ふう氏を招聘し、現代日本社会の複

数言語状況における文化表現の方向性や姿勢、求められる語彙や文体について、研究と表現の現場を横断する議論を行った。オンラインも併用するものとしたため、600人以上が視聴・参加するものとなった。



#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

[論文]

論文名：Créer des liens pour lutter contre l'isolement et les violences. Mobilisation de femmes chinoises migrantes se prostituant à Paris

著者名：Chen, Ting, et Hélène Le Bail (国際共著) ※

掲載誌・巻・ページ：Hommes & Migrations, vol. 1331, no. 4, pp. 67-73, 2020

論文名：十三の中国エステで働くということ

著者名：青山薫

掲載書：崔博憲・伊藤泰郎編著『日本で働く—外国人労働者の視点から』所収、399-412 ページ、松籟社、2021年3月 ※

論文名：Bodies of Onna-no-ko: The Case of a Sex Establishment in Tokyo, Japan

著者名：Kumada, Yoko

掲載書：*Forms of the Body in Contemporary Japanese Society, Literature, and Culture*, Holca, Irina, Tamas, Carmen Sapunaru eds., pp.273-288, Lexington Books, May 2020 ※

論文名：「東南アジアにおける新型コロナ対応と地域秩序」

著者名：太田和宏

掲載誌・巻・ページ：『アジア・アフリカ研究』第61巻第1号、2021年2月

論文名：フランス：試練のマクロン体制とEU連帯の追求

著者名：坂井一成

掲載書：植田隆子(編)『新型コロナ危機と欧州—EU・加盟10カ国と英国の対応』文眞堂、2021年3月、132-153ページ。

論文名：ソーシャル・ヨーロッパの行方—人の移動の自由と社会保護のジレンマ

著者名：関根由紀

掲載書：吉井昌彦(編)『EUの回復力』勁草書房、2021年3月、26-43ページ。

論文名：移民難民危機とEUの回復力—新しい連帯の模索

著者名：坂井一成

掲載書：吉井昌彦(編)『EUの回復力』勁草書房、2021年3月、93-110ページ。

論文名：2010年代のEUの揺らぎと回復力—域内南北経済格差の観点から

著者名：吉井昌彦

掲載書：吉井昌彦(編)『EUの回復力』勁草書房、2021年3月、26-43ページ。

[著書]

著書名：Materialism of Archive 記録のマテリアリズム - A Dialogue on Movement / Migration and Things Between Japanese and Mexican Researchers ?—移動／移民とモノをめぐる日墨研究者による対話—

著者名：小笠原博毅・鋤柄史子（編）（国際共著）

ページ数：128 ページ

発行所、発行年：神戸大学出版会、2021 年 3 月

著書名：EU の回復力

著者名：吉井昌彦（編）

ページ数：254 ページ

発行所、発行年：勁草書房、2021 年 3 月

5. 関連活動及び特記事項

(1) 外部資金等(外部資金名(種目), 代表者名, 研究タイトル, 当該年度の受入金額を記載)

外部資金名: 科学研究費補助金

研究種目: 基盤研究(B)

代表者名: 桜井徹

研究課題名: グローバル・ウェルフェアの実現と課題をめぐる文理協働型  
実証研究

受入金額: 4,500,000 円

外部資金名: 大学発アーバンイノベーション神戸

研究種目: 一般助成型

代表者名: 辛島理人

研究課題名: 神戸における観光資源の再設定: ユダヤ人観光の可能性

受入金額: 2,256,000 円

外部資金名:

研究種目: Jean Monnet Activities

代表者名: 関根由紀・坂井一成

研究課題名: European Transoceanic Encounters and Exchanges

受入金額: €46.277,5

(EU 負担: €36,598 神戸大学負担: €9,679.5)

外部資金名: JSPS 研究拠点形成事業 (A.先端拠点形成型)

代表者名: 坂井一成

研究題目: 「コミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」

受入金額: 3,430,000 円

(2) 受賞 (賞名称, 受賞対象, 受賞者名, 授与機関名, 受賞年・月) (KUID にあわせる)

無し

(3) 特論の実施内容

無し

(4) 研究集会の開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

研究集会名：「零れ落ちる声たちのために—いまこの世界で「書く」ということ」

主催団体がある場合は主催団体：神戸大学国際文化学研究推進センター

開催日：2020年12月4日（オンラインでも配信）

場所：神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

(5) その他，研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項

招待講演

‘Sex Workers and the Right Approach: the International Legal Framework’  
at Intersections: Global Dialogue on Gender, Development & Social  
Justice, Gender and Development Studies Program, Asian Institute of  
Technology, Thailand (Online), 9th November 2020 ※

招待講演

‘Sex Marriage and Other Contracts’ at Podcast production of the Lion's Share,  
PPE Society, King's College, London, UK (Online), with Shrage, Laurie  
and Friedman, David, 11th February 2021 onwards ※

様式（年次報告書）

令和 3 年 4 月 9 日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		市場経済の持続的成長可能性に関する研究	
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		経済学研究科・羽森茂之	
当該年度	研究員数	人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）	
	外部資金 獲得実績	科学研究費補助金	12870 千円，受託研究経費 千円， 奨学寄附金 千円，その他（ 千円）
	特許出願件数	件，	論文発表件数 20 件， 著書数 2 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
羽森 茂之	経済学研究科・経済学専攻	研究プロジェクトリーダー
中村 保	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（経済成長側面の分析）
金京 卓司	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（国際金融側面の分析）
竹内 憲治	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（環境側面の分析）
衣笠 智子	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（人口・農業側面の分析）
茂木 快治	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（計量経済学の立場からのデータ解析）
田中 克幸	経済学研究科・経済学専攻	研究分担者（データサイエンスの立場からのデータ解析）
有木 康雄	都市安全研究センター	研究参画者
滝口 哲也	都市安全研究センター	研究参画者
陳 光輝	国際協力研究科・国際開発政策専攻	研究参画者
井上 武	国際協力研究科・国際開発政策専攻	研究参画者

佐藤 真行	人間発達学研究科・人間環境学専攻	研究参画者
辻 隆司	愛知大学・経済学部	研究参画者
Nori Tarui	University of Hawaii (MANOA), Department of Economics	研究参画者
Guifu Chen	Xiamen University, Center for Macroeconomic Research	研究参画者
Wanjun Yao	Nankai University, School of Economics	研究参画者
Yang Lu	Shenzhen University, School of Finance	研究参画者
Youngho Chang	School of Business, Singapore University of Social Sciences	研究参画者

### 3. 研究成果の概要等について

本研究プロジェクトでは、「市場経済の持続的成長可能性に関する研究」という共通テーマのもと、研究統括者・研究分担者が研究参画者と協力をしながら、下記のテーマを中心とした関連課題に精力的に取り組んでいる。

- ・環境・エネルギー問題に関する持続的成長可能性の観点からの分析。
- ・人口及び食料問題に関する持続的成長可能性の観点からの分析。
- ・発展途上国の貧困・格差の問題に関する持続的成長可能性の観点からの分析。
- ・金融リスクに代表される外的ショックに対するリスクの視覚化とそれを用いた経済分析。

年度初めに生じたコロナウイルスの影響のため、海外の研究者との共同研究に関しては、困難が伴う一年間であったが、その中でも、研究プロジェクトのアウトプットとして、国際学術専門誌への論文発表、英文研究書の出版、等を通じた国際的な情報発信を積極的に行った。海外でも注目を集める国際的な研究プロジェクトとなることを目指し、継続的な努力を行ってきた。

本年度の研究統括者・研究分担者の主要な活動内容は以下の通り。

(1) プロジェクトリーダーの羽森茂之教授が、International Research Institute for Economics and Management (IRIEM)の President に出され、海外の研究機関との積極的な学術交流に尽力した。

(2) プロジェクトリーダーの羽森茂之教授が Institute of Data Science and Artificial Intelligence (IDSAI) の Distinguished Fellow に選出された。

(3) プロジェクトの研究成果として、20編の論文（英語論文は20編、国際共著は19編）、2冊の書籍、1篇の分担執筆、という形を通じて、研究成果の積極的な公表を行った。

(4) プロジェクトメンバーの研究成果に対して、1件の受賞（Outstanding Reviewer Award, Journal of Risk and Financial Management）を受け、プロジェクトの研究成果が内外で高い評価を得た。

(5) プロジェクトリーダーの羽森茂之教授が、Guest Editor として編纂した国際学術専門誌「Journal of Risk and Financial Management」と「Energies」の Special Issue が出版された。

(6) プロジェクトリーダーの羽森教授が、新たに、国際学術専門誌「Singapore Economic Review」の Co-Editor, 「Humanities & Social Sciences Communications」の Editorial Board member, 「Mathematical Problems in Engineering」の Editorial Board member, 「Businesses」の Editorial Board Member に就任し、国際的な学術研究の推進に尽力をした。

これらのより詳細な内容に関しては、以下を参照。



#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### 論文

###### [論文 1]

論文名 : Influence of Fluctuations in Fossil Fuel Commodities on Electricity Markets: Evidence from Spot and Futures Markets in Europe,

著者名 : Tiantian Liu ,Xie He ,Tadahiro Nakajima and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(8), 1-20. 2020

###### [論文 2]

論文名 : Do machine learning techniques and dynamic methods help forecast US natural gas crises?

著者名 : Wenting Zhang and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(9), pp.1-25. 2020

###### [論文 3]

論文名 : Forecasting crude oil market crashes using machine learning technologies

著者名 : Yulian Zhang and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies,13(10), pp.1-14. 2020

###### [論文 4]

論文名 : Diversification and Desynchronicity: An Organizational Portfolio Perspective on Corporate Risk Reduction

著者名 : Xue-Feng Shao, Kostas Gouliamos, Ben Nan-Feng Luo, Shigeyuki Hamori, Stephen Satchel I, Xiao-Guang Yue, and Jane Qiu (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Risks, 8(2), pp.1-16. 2020

###### [論文 5]

論文名 : The Response of U.S. Macroeconomic Aggregates to Price Shocks in Crude Oil vs. Natural Gas

著者名 : Jin Shang, Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(10), pp.1-18. 2020

###### [論文6]

論文名 : Spillovers to renewable energy stocks in the US and Europe: Are they different?

著者名 : Tiantian Liu and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(12), pp.1-28.2020

[論文7]

論文名 : Dependence structures and risk spillover in China's credit bond market: A copula-CoVaR approach

著者名 : Lu Yang, Lei Yang, Kung-Cheng Ho, and Shigeyuki Hamori\_(国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Journal of Asian Economics, 68(C), pp.1-12.2020.

[論文8]

論文名 : Energy and Human Capital: A Driver or Drag for Economic Growth

著者名 : Youngho Chang, Zheng Fang, and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Singapore Economic Review, 65(3) pp.683-714. 2020

[論文9]

論文名 : Forecasts of Value-at-Risk and Expected Shortfall in the Crude Oil Market: A Wavelet-Based Semiparametric Approach

著者名 : Lu Yang and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energies, 13(14), pp.1-27. 2020.

[論文10]

論文名 : Can BRICS's currency be a hedge or a safe haven for energy portfolio?: An evidence from vine copula approach

著者名 : Yijin He, Tadahiro Nakajima, and Shigeyuki Hamori. (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Singapore Economic Review, 65(4), pp.805-836. 2020

[論文 11]

論文名 : Moving average threshold heterogeneous autoregressive (MAT-HAR) models

著者名 : Kaiji Motegi, Xiaojing Cai, Shigeyuki Hamori, and Heifeng Xu (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Journal of Forecasting, 39(7), pp.1035-1042.2020

[論文12]

論文名 : Spillover Effects between Energies, Gold, and Stock: The United States versus China,

著者名 : Xie He, Tetsuya Takiguch, Tadahiro Nakajim, and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Energy and Environment, 31(8), pp.1416-1447. 2020

[論文13]

論文名 : Copula-based regression models with data missing at random

著者名 : Shigeyuki Hamori, Kaiji Motegi, and Zheng Zhang (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Journal of Multivariate Analysis, 180, 104654.2020

[論文14]

論文名 : The Influence of Quality and Variety of New Imports on Enterprise Innovation: Evidence from China,

著者名 : Guifu Chen, Shan Zhan, and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Sustainability,12(22),pp. 1-20.2020

[論文15]

論文名 : Oil, Gas, or Financial Conditions - Which One Has a Stronger Link with Growth?

著者名 : Yulian Zhang, Xie He, Tadahiro Nakajima, and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : North American Journal of Economics and Finance, 54, 101220.2020

[論文16]

論文名 : Systemic Risk and Economic Policy Uncertainty: International Evidence from the Crude Oil Market,

著者名 : Lu Yang and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : Economic Analysis and Policy, 69, pp.142-158. 2021

[論文17]

論文名 : Continuous wavelet analysis of Chinese renminbi: Co-movement and lead-lag relationship between onshore and offshore exchange rates,

著者名 : Lei Xu, Shigeyuki Hamori, and Takuji Kinkyo (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : North American Journal of Economics and Finance, 56, 101360. 2021

[論文18]

論文名 : Crude oil market and stock markets during the COVID-19 pandemic: Evidence from the US, Japan, and Germany,

著者名 : Wenting Zhang and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, 巻, ページ : . International Review of Financial Analysis, 74, 101702.2021  
2019

[論文 19]

論文名 : ESG Disclosures and Stock Price Crash Risk

著者名 : Rio Murata and Shigeyuki Hamori

掲載誌, Journal of Risk and Financial Management, 14(2), 70. 2021

[論文 20]

論文名 : On the Predictability of China Macro Indicator with Carbon Emissions Trading

著者名 : Qian Chen,Xiang Gao,Shan Xie,Li Sun,Shuairu Tian, and Shigeyuki Hamori (国際共著)

掲載誌, Energies, 14(5), 1271.2021

## 著書

### [著書 1]

著書：AI and Financial Markets（共著）

著者名：Hamori, S. and Takiguchi, T.

発行所，発行年：Basel: MDPI, 2020

### [著書 2]

著書：David A. Anderson and Hamori, S.（共著）

著者名：Empirical Analysis of Natural Gas Markets

発行所，発行年：Basel: MDPI, 2020

## 分担執筆

### [分担執筆 1]

著書：Sustainability and Environmental Decision Making（編著）

編著者名：Sustainability and Environmental Decision Making g

ページ：Environmental Policy and Sustainable Growth in Japan

発行所，発行年：Springer, 2021 年

## 5. 関連活動及び特記事項

### (1) 外部資金等

外部資金名：科学研究費助成事業

研究種目：基盤研究（A）

代表者名：羽森茂之

研究課題名：データサイエンスのアプローチによる金融リスク管理とその波及メカニズムに関する研究

2020年度受入金額：11,570千円（直接経費と間接経費の合計額）

研究期間：2017年4月～2021年3月

課題番号：17H00983

外部資金名：科学研究費助成事業

研究種目：若手研究

代表者名：茂木快治

研究課題名：因果推論、欠損データ分析、コンピュータモデルを結びつける革新的アプローチ

2019年度受入金額：1,300千円（直接経費と間接経費の合計額）

研究期間：2019年4月～2022年3月

課題番号：19K13670

### (2) 受賞

#### [受賞 1]

賞名称：Outstanding Reviewer Award

受賞対象：Journal of Risk and Financial Management における論文の査読活動

受賞者名：Shigeyuki HAMORI

授与機関名：Journal of Risk and Financial Management

受賞年・月：2020年4月

### その他

[1] 2020年4月：羽森茂之教授が International Research Institute for Economics and Management (IRIEM)の President に就任した。

[2] 2020年5月：羽森茂之教授が国際学術専門誌「Journal of Risk and Financial Management」の Guest Editor として、Special Issue "AI and Financial Markets"の編集を行った。

- [3] 2020年6月：羽森茂之教授が Springer Nature 傘下の学術専門誌である「Humanities & Social Sciences Communications」の Editorial Board Member に就任した。
- [4] 2020年6月：羽森茂之教授が国際学術専門誌「Energies」の Guest Editor として、Special Issue "Empirical Analysis of Natural Gas Markets"の編集を行った。
- [5] 2020年8月：羽森茂之教授が国際学術専門誌「Mathematical Problems in Engineering」の Editorial Board Member に就任した。
- [6] 2020年9月：羽森茂之教授が国際学術専門誌「Businesses」の Editorial Board Member に就任した。
- [7] 2020年11月：羽森茂之教授が国際学術専門誌「Singapore Economic Review」の Co-Editor に就任した。
- [8] 2021年1月：羽森茂之教授が Institute of Data Science and Artificial Intelligence (IDSAI) の Distinguished Fellow に選出された。

様式（年次報告書）

令和 3 年 5 月 6 日

## 2020年度研究プロジェクト年次報告書

## 1. 研究プロジェクト概要

研究プロジェクトの名称		貧困削減のための持続可能なコミュニティ開発
研究プロジェクトリーダー 部局・専攻・氏名		国際協力研究科 島村 靖治
当該年度	研究員数	10人（学術研究員，学振特別研究員（DC1, DC2 は除く），外国人招へい研究員等）
	外部資金獲得実績	科学研究費補助金 8,310千円，受託研究経費 千円，奨学寄附金 7,000千円，その他（ 2,964千円）
	特許出願件数	件，論文発表件数 15件，著書数 件

## 2. 構成員とその役割分担

氏名	部局・専攻	役割分担
島村 靖治	国際協力研究科	研究代表者(農業・応用経済学)
佐藤 希	国際協力研究科	研究分担者(ジェンダー研究、インド)
長野 宇規	農学研究科	研究分担者(地域計画学)
上曾山 博	農学研究科	共同研究者(栄養代謝学)
中澤 港	保健学研究科	共同研究者(国際保健学)
亀岡 正典	保健学研究科	共同研究者(感染症対策)
諸岡 育美	在ベトナム日本大使館	専門調査員
浅岡 浩章	政策研究大学院大学 国際協力機構	政策研究院参与 JICA 研究所客員研究員
津坂 卓志	先端融合研究環 アジア工科大学院	共同研究者(経済学)
高松 紳也	世界銀行コンサルタント	共同研究者(応用経済学)

### 3. 研究成果の概要等について

#### **【農業】**

- 社会科学の分野では 2017 年度に神戸大学と全学協定を締結したベトナム、フエ農林大学と持続可能な農業技術の普及に関する共同研究を行い、化学肥料の使用量を抑えることのできるコメの新品種の普及に、どの程度民間の社会ネットワークを通じた情報の伝搬が貢献したのかを示した論文を国際学術誌に公開した。
- 同時に、有機肥料の使用に関する情報伝搬についての研究も国際学術誌に採択されている。2本の論文によりベトナムでの持続可能な農業技術の普及にあたり、政府の農業普及員を通じた情報伝搬に加えて、民間の社会ネットワークを通じた情報の拡散が大きな役割を果たしており、それらが補完的な役割を担っていることが示された。
- インドで実施してきた家畜飼育の促進を目的とした女性自助組織を通じたマイクロ・ファイナンスに関する研究については、自助組織活動への参加女性とその夫との関係、主に夫から妻へのサポートが得られているかという視点からマイクロ・ファイナンス事業の持続可能性を検証した研究論文が国際学術誌に採択された。また、女性自助組織への参加が女性の家庭外での賃金労働への就労を促進したかどうかについて検証した研究についても学会で発表している。
- 自然科学の分野では養鶏、鶏卵生産に関する研究について 3 本、バイオエコノミーなかでも土壌に関する研究について 2 本の論文を国際学術誌に公開している。
- アジア工科大学院との農業及び自然資源管理に関する研究では、(1) バングラデシュのハイブリッド米の生産性及び収益性のフロンティア分析、(2) タイ中部での農業における社会経済的及び環境的な障壁に関する分析、(3) タイ南部でのヤシ油生産における持続可能な技術の採用要因分析、(4) タイ東北部における農民の土地管理システムに関する定量分析、(5) ミャンマーにおけるヒエとキマメの活用による小児栄養状態改善に関する分析、(6) カンボジアにおける森林伐採のミクロ的因子分析、(7) カンボジアの 2 つの REDD+ プロジェクトの影響比較分析を行い、それぞれを論文として刊行した。

#### **【保健医療】**

- 保健医療に関する社会科学分野の研究については、これまでに実施してきたベトナムにおける医療保険制度の変遷とその加入率の変化に関する研究を財務省財務総合政策研究所 ASEAN ワークショップにて発表する機会を得た。近年、急速な経済成長を遂げている ASEAN 諸国の筆頭であるベトナムにおける保健医療制度に対しては益々関心が高まっている。ワークショップでは、ベトナムの近年の経済状況の概観から始まり、経済成長と共にどのように国民の健康状態が改善してきたかを示した。その後、ベトナムにおける医療サービスの提供体制（公的医療施設は中央レベル、省レベル、郡レベル、村落レベルの 4 階層の構造をしている）を提示した上で、2020 年度までの国民皆保険化を目指して、これまでにどのように医療保険制度が変遷してきたかを示し、1) 皆保険化の達成を妨げる要因は何か？ 2) 全国での加入率が 8 割を越えるなかで医療保険市場の「情報の非対称性」の問題はいつまで残るのか？ 3) 医療保険加入率の増加に伴い医療サービスの需要と供給はどのように変化してきたのか？ 4) 医療保険の加入と企業利益や労働生産性の間に



はどのような関係があるのか?について研究発表を行った。なお、本ワークショップでは、ベトナム政府がいかに新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐことができたかについても、特にベトナム政府の初動の速さに注目した発表を行った。そして、1)と2)をまとめた論文については学会の企画セッションでも発表を行っている。

- 科学研究費国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))「インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの国際比較」研究を更に進めた。本研究は、2015年に国連で採択された Sustainable Development Goals (SDGs)の第3重要課題に設定された「健康な暮らし及び厚生学の促進」に関連した研究課題に対して、既存データならびに現地調査を通して収集する独自データを用いて取り組むことを目的としており、2020年度はカンボジアの Demographic and Health Survey (DHS)を使った、医療従事者へのワークインセンティブ制度の効果についての研究を行い学会で発表を行った。同時に、独自調査の実施に向けた準備作業を更に進めた。関連した研究として、インドネシア農村部でも、医療ボランティアのワークインセンティブに関する調査を実施した。

- アジア工科大学院との共同研究では、新型コロナウイルス禍での行動制限下における新たなモードでの国際開発プロジェクトマネジメントに関する研究を行い、特にプロジェクト管理評価に関して新たな知見をまとめ、論文を刊行した。

#### [インフラストラクチャー]

- SDGsでは第6課題としてとり上げられている「安全な水へのアクセス」は人々の生活を支える重要な要素の一つである。国際協力機構(JICA)研究所との共同研究であるザンビアでの深井戸建設事業の研究については、その社会・経済効果に関する研究の成果として2本の論文を慶応義塾大学経済学研究科のディスカッションペーパーとして発表した。

- JICA 研究所およびアジア工科大学院とのミャンマーでの共同研究、マンダレー市都市配管給水施設建設事業についても、その社会・経済効果についての研究を行い学会の企画セッションにおいて発表を行っている。サンピアの深井戸ならびにミャンマーでの都市配管給水施設の建設により「安全な水へのアクセス」は改善されたが、水需要が増加した結果としてザンビアでは女兒の水汲み負担の増加、ミャンマーでは水の使用料の高額化が確認された。

- アジア工科大学院との共同研究では、カンボジアのカンポンプルック浮遊村におけるエコツーリズム管理に関する研究を行い、論文として刊行した。

#### 4. 論文・著書・特許出願リスト

##### [論文]

論文名 : Information acquisition and the adoption of a new rice variety towards the development of sustainable agriculture in rural villages in central Vietnam.

著者名 : Le T.Q.A., Shimamura, Y., and Yamada, H. (国際共著)

*World Development Perspectives* 20:100262, 2020. (査読有)

論文名 : Nondestructive VIS/NIR spectroscopy estimation of intravitelline vitamin E and cholesterol concentration in hen shell eggs..

著者名 : Kuroki, S., Kanoo, T., Itoh, H., Kamisoyama, H.

*Journal of Food Measurement and Characterization* 14:1116-1124, 2020. (査読有)

論文名 : Central administration of insulin-like growth factor-2 suppresses food intake in chicks.

著者名 : Honda, K., Kewan, A., Osada, H., Saneyasu, T., Kamisoyama, H. (国際共著)

*Neuroscience Letters* 751:135797, 2021. (査読有)

論文名 : Effects of fasting and re-feeding on the expression of CCK, PYY, hypothalamic neuropeptides, and IGF-related genes in layer and broiler chicks.

著者名 : Kewan, A., Saneyasu, T., Kamisoyama, H., Honda, K. (国際共著)

*Physiology Part A: Molecular & Integrative Physiology* 257:110940, 2021. (査読有)

論文名 : Long-term monitoring of soil salinity in a semi-arid environment of Turkey.

著者名 : Akça, E., Aydin, M., Kapur, S., Kume, T., Nagano, T., Watanabe, T., Çilek, A., Zorlu, K. (国際共著) *Catena*, 193, 104614 (査読有)

論文名 : Biomass effect on soil organic carbon in semi-arid continental conditions in central Turkey.

著者名 : Büyük, G., Akça, E., Kume, T., Nagano, T. (国際共著)

*Polish Journal of Environmental Studies* 29(5), 3525-3533. (査読有)

論文名 : Towards a successful post COVID-19 transition of monitoring, evaluation, and learning in complex sustainability science research-to-policy projects.

著者名 : Szabo, S., Nhau, B., Tsusaka, T.W., Kadigi, R., Payne, T., Kangile, R.J., Park, K., Couto, M., Runsten, L., Burgess, N. (国際共著)

*Sustainability (Switzerland)* 13: Article 387. 2021. (査読有)

論文名 : Productivity, profitability, efficiency, and land utilization scenarios of rice cultivation: an assessment of hybrid rice in Bangladesh.

著者名 : Anwara, M., Zulfiqarb, F., Ferdousa, Z., Tsusaka, T.W., Datta, A. (国際共著)

*Sustainable Production and Consumption* (査読有) 26, 752-760. 2021.

論文名 : Assessment of the local perceptions on the drivers of deforestation and forest degradation, agents of drivers, and appropriate activities in Cambodia.

著者名 : Ken, S., Sasaki, N., Entani, T., Ma, H-O, Thuch, P., Tsusaka, T.W. (国際共著)

*Sustainability (Switzerland)* 12 (23), Article 9987. 2020. (査読有)

論文名 : Socio-economic and environmental barriers to increased agricultural production: New evidence from central Thailand.

著者名 : Apipoonanon, C., Szabo, S., Tsusaka, T.W., Gunawan, E., Kuwornu, J.K.M. (国際共著)

*Outlook on Agriculture* November 2020, 1-10. 2020. (査読有)

論文名 : Factors influencing the intensity of adoption of the roundtable on sustainable palm oil practices by smallholder farmers in Thailand.

著者名 : Rodthong, W., Kuwornu, J. K. M., Datta, A., Anal, A.K., Tsusaka, T.W. (国際共著)

*Environmental Management* 66, 377-394. 2020. (査読有)

論文名 : Reasons for adoption of sustainable land management practices in a changing context: A mixed approach in Thailand.

著者名 : Salaisook, P., Faysse, N., Tsusaka, T.W. (国際共著)

*Land Use Policy* 96, Article 104676. 2020. (査読有)

論文名 : Effect of REDD+ projects on local livelihood assets in Keo Seima and Oddar Meanchey, Cambodia.

著者名 : Ken, S., Entani, T., Tsusaka, T.W., Sasaki, N. (国際共著)

*Heliyon* 6 (4), Article e03802. 2020. (査読有)

論文名 : Assessment of the changing levels of livelihood assets in the Kampong Phluk community with implications for community-based Ecotourism.

著者名 : Kry, S., Sasaki, N., Abe, I., Datta, A., Tsusaka, T.W. (国際共著)

*Tourism Management Perspectives* 34, Article 100664. 2020. (査読有)

論文名 : Potential for Smart Food products in rural Myanmar: use of millets and pigeonpea to fill the nutrition gap.

著者名 : Seetha, A., Htut, T.T., Tsusaka, T.W., Jalagam, A., Kane-Potaka, J. (国際共著)

*Journal of the Science of Food and Agriculture* 100 (1), 394-400. 2020. (査読有)

ワーキング／ディスカッションペーパー

論文名： The impact of improved access to safe water on childhood health, schooling and time allocation in rural Zambia.

著者名： Shimamura, Y, Shimizutani, S., Taguchi, S., and Yamada, H.

Keio-IES Discussion Paper Series 2020-022, Institute for Economics Studies, Keio University.

論文名： Improved access to safe water: Effects on adult health and time reallocation in rural Zambia.

著者名： Shimamura, Y, Shimizutani, S., Taguchi, S., and Yamada, H.

Keio-IES Discussion Paper Series 2020-024, Institute for Economics Studies, Keio University.

## 5. 関連活動及び特記事項

### (1) 外部資金等

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：挑戦的研究（萌芽） 平成30年度－平成32年度

代表者名：島村 靖治

研究課題名：新興国における農村フィールド実験と医療データベースを結合した  
政策シミュレーション

受入金額： 600,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

平成30年度－平成34年度

代表者名：島村 靖治

研究課題名：インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの  
国際比較研究

受入金額： 4,600,000 円

○外部資金名：科学研究費補助金

研究種目：基盤研究(C)

代表者名：上曾山 博

研究課題名：ニワトリの食欲調節における中枢の細胞内シグナル伝達因子の  
役割

受入金額：964,150 円

○外部資金名：共同研究

代表者名：上曾山 博

研究課題名：畜産用新規飼料素材開発

受入金額：267,286 円

○外部資金名：共同研究

代表者名：上曾山 博

研究課題名：新規乳酸菌素材の企画

受入金額：834,000 円

○外部資金名：共同研究

代表者名：上曾山 博

研究課題名：ブロイラーにおける飼料の含水率が、飼養成

受入金額：1,863,268 円

○外部資金名： IDE-JETRO

研究種目： Agriculture, Industrial Development

代表者名： T.W. Tsusaka

研究課題名： Thai Tapioca Project

受入金額： 1,650,000 円

○外部資金名： UNEP/CTCN/UNIDO

研究種目： Climate Change, Agriculture

代表者名： A. Datta, A. K. Anal, T.W. Tsusaka, et al.

研究課題名： Agro SME Capacity Building

受入金額： 5,355,720 円 (USD 49,590)

○外部資金名： Asian Development Bank

研究種目： Agriculture, Climate Change

代表者名： M.S. Babel, S. Shrestha, T.W. Tsusaka, et al.

研究課題名： Climate-smart agricultural innovations in the highlands of Northern Thailand

受入金額： 173,398,575 円 (ThB 49,542,450)

(2) 受賞 なし

(3) 特論の実施内容 【国際保健医療論】

担当者氏名	日時、コマ数	言語	内容
北潔	2月9日 3,4限	日本語	熱帯感染症の創薬
大前比呂思	2月11日 3,4限	日本語	途上国病院医療と生活習慣病 Double burden 途上国における 疾病構造の転換と生活習慣病
杉下智彦	2月12日 3,4限	日本語	持続可能な開発目標(SDGs)と 未来社会デザイン COVID-19 パンデミックへの 医療人類学アプローチ
門司和彦	2月13日 1,2限	日本語	人類生態学と エコヘルスアプローチ
山本太郎	2月18日 3,4限	日本語	近代医学の転換
狩野繁之	2月19日 4,5限	日本語	国際保健医療としての マラリア対策
塚原高広	3月4日 3,4限	日本語	急性感染症に関する 医療サービスの利用

(4) 研究集会の開催（研究プロジェクトの活動と関連の深いものに限る）

研究集会名：財務省総合政策研究所・ASEAN ワークショップ  
新興国の医療保障制度の構築に向けて  
－ベトナムの医療保険制度に関する調査研究－

開催日：令和2年6月29日

場所：財務省総合政策研究所

研究集会名：国際開発学会第31回全国大会

企画セッション

途上国におけるマイクロ実証分析：

家計調査データを用いた研究事例

島村靖治 ベトナムの公的医療保険市場における加入率の分析  
－国民皆保険化の達成に向けて－

劉子瑩 医療従事者へのインセンティブ制度導入の効果  
－カンボジアの公的医療セクターの事例－

佐藤希 インド農村部における女性の労働市場参加

－女性の自助組織活動、全国農村保障計画に焦点をあて－

浅岡浩章 途上国の都市給水施設整備に伴う水利用の変化に関する

実証分析－ミャンマーにおける都市給水事業を事例として－

開催日：令和2年12月6日

場所：オンライン

研究集会名： Forest Restoration and Global Sustainability  
(International Day of Forests)

主催団体： Asian Institute of Technology (AIT)

開催日：令和3年3月21日

場所：オンライン

研究集会名： Sustainability Hackathon

主催団体： Asian Institute of Technology (AIT)

開催日： 令和2年11月21日

場所：Entrepreneurship Center, AIT

研究集会名： AEON Ocean Plastic Hackathon

主催団体： AIT & Prefectural University of Hiroshima

開催日： 令和2年4月3日

場所： Chulalongkorn University

(5) その他、研究プロジェクトの活動と関連のある特記事項 なし